

令和7年度第2回白井市介護保険運営協議会 会議録（要点）	
1. 開催日時	令和7年11月17日（月曜日） 午後2時から午後3時30分まで
2. 開催場所	本庁舎2階災害対策室2・3
3. 出席者	会長、岡本委員、青龍委員、松本委員、委員、金子委員、 石田委員、吉田委員、渡辺委員、坂巻委員、中島委員、根本委員、 野口委員
欠席者	海老原(圭)委員、海老原(賢)委員
事務局	高齢者福祉課 奥村課長、 介護保険係 加藤係長、勝木主査補 (株)ちばぎん総合研究所 3名
4. 傍聴者	1人
5. 議題	①第10期介護保険事業計画策定に向けた動きについて（公開） ②（仮）白井市認知症施策推進計画について（公開） ③各種基礎調査の概要について（公開）
6. 議事	以下の概要のとおり
【事務局】	○欠席委員2名。白井市介護保険条例施行規則第60条第2項の規定により、過半数に達しているので会議を開会する。
	○会議は、原則公開とする。
【会長】	○会長あいさつ 会長よりあいさつがなされる。
【会長】	議題1 第10期介護保険事業計画策定に向けた動きについて を議題とする。
	事務局より説明を求める。
【事務局】	（全体説明資料p.1～p.6により説明）
【会長】	ただ今、事務局より議題1について説明があった。質問、意見はあるか。 （特になし）
【会長】	議題2 （仮）白井市認知症施策推進計画について を議題とする。
	事務局より説明を求める。
【事務局】	（全体説明資料p.7～p.12に加えて、第9期計画記載の認知症施策について説明）
	第10期計画に包含する形で認知症施策推進計画を策定する方針について、意見を伺いたい。
【会長】	今回、国が示す認知症対策の基本的な考え方というのを見せていただくと、認知症対策について認知症を持っていない人も含めて、認知症の家族もしっかりとした認識を持って取り組んでいこうというような意味合いにとれる。
	今、市が取り組んでいる内容はどちらかというと、例えば認知症カフェの開催や認知症サポーターやパートナーの養成、見守り訓練の実施など全て

	<p>が認知症のある方に対して働きかけるようなことが主になっているが、国は、認知症のある方をもっと全体として包み込んで話を進めようというように読み取れた。その取り組みの差があるように思えたため、今後、どう叩き台を作っていくのか見えないが、その部分が今後問題になるのではないか。</p> <p>この点について、事務局がどんな方向を考えているかを説明いただかないと意見の出しようがない気がする。</p>
【事務局】	<p>具体的な内容は現時点で決まっていないが、認知症基本法に示されている基本的施策を基に市の実情に合わせて内容を検討していくことになる。検討に際しては、認知症のある人とその家族、関係者等への意見聴取を行い、また「白井市在宅医療・介護連携、認知症対策推進協議会」の医療・介護等専門職の意見も反映させていく予定。</p>
【会長】	<p>まだ事務局も具体的な意見を持っていないようなので、今後計画を立てる上でこういうことも取り組むといいのではという話でも構わない。ぜひ活発に皆さんからの意見をいただきたい。</p>
【委員】	<p>昨年度、地域で認知症見守り訓練が行われ、認知症のある人役として参加し、とても意味がある取組だと感じたため、今年度はまちづくり協議会が主催する形で昨年と同様の規模で実施した。参加者の年代が高く、もっと若い年代、例えば中学生などが関心を持って参加してもらえたらという意見があった。参加者からは参加してよかったという意見が多数あり、毎年続けていかなければいけないと感じている。</p> <p>認知症のある人を地域で支えていくには、多くの人の理解と協力が必要だと思う。</p>
【会長】	<p>他に意見はあるか。</p>
【委員】	<p>事務局説明に「新しい認知症観」という言葉があったが、今でも認知症の方はいらっしゃるのに、「新しい」という言葉を加えた理由を知りたい。</p> <p>2点目は、基本法の基本施策に相談支援体制の整備の取り組みとして、認知症の人または家族等が孤立することがないようにするための施策とあるが、取り組みを聞かせてほしい。</p> <p>3点目は、同じく基本法の基本施策に認知症の予防として、希望する者が科学的知見に基づく予防に取り組むことができるようにと記載があるがその内容を教えていただきたい。</p>
【事務局】	<p>「新しい認知症観」とは、認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも、一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるという考え方となる。これまで認知症の人を病気の進行度や症状だけで捉えがちだった視点から脱却し、その人の個性や能力、思いを軸に据える見方となります。</p> <p>2点目の相談支援体制の整備については、個々の認知症の人・家族の状況に配慮しつつ総合的に対応することができるよう体制を整えていく必要</p>

	<p>があります。他自治体の取り組み事例として、認知症の人やその家族は、診断直後は認知症を受容できず、今後の見通しに大きな不安を抱えるためその不安等を軽減する観点から、認知症の診断を受け、その不安を乗り越え前向きに生活している認知症の人本人（ピアサポーター）による心理面・生活面に関する早期からの支援等が紹介されている。</p> <p>３点目の科学的知見に基づく認知症の予防については、医療の立場から会長がご存じの内容について説明をお願いしたい。</p>
【会長】	<p>特に専門ではないが、今は認知症予防薬というか進行を進めないようにする薬が３種類あり、患者さんの状態に応じて処方をしている。また最近では注射薬の使用も可能となったが、費用が高額であることから实际的ではない。今後新たな薬が開発されると状況も変わってくるので、そういった最新の科学的な見地による対応を示しているのではないかと思います。</p> <p>他の委員より意見はあるか。</p> <p>（特になし）</p>
【会長】	<p>今後事務局の方もこれに関して、我々と常に連絡を取りながら、次回までに基本的な施策を作り上げていただけたらと思う。こんな取組をやったらいいいのではというのがあれば、そのまま事務局の方に言っていただけるとありがたい。</p> <p>次の議題に移る。</p>
【会長】	<p>議題３ 各種基礎調査の概要について を議題とする。</p> <p>調査概要について、事務局より説明を求める。</p>
【事務局】	<p>（資料１により説明）</p>
【会長】	<p>質問・意見はあるか。</p> <p>（特になし）</p>
【会長】	<p>各調査票について、事務局より説明を求める。</p>
【事務局】	<p>（資料２－１～６を順次説明）</p> <p>資料２－１介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(案)にある市独自設問は、空き家対策や行政手続きのデジタル化に向けた対応、難聴対策の検討、認知症施策推進計画策定のための実態把握、高齢者の就労支援対策の検討等のために設けている。</p>
【会長】	<p>質問・意見はあるか。</p>
【委員】	<p>スマホなどの情報機器の使用状況についての設問だが、私の周囲でもスマホを持っている高齢者の方がたくさんいるが、多くの方は電話機能しか使っていない。スマホを持っているか持っていないかの調査だけではなく、スマホで何ができますか、何がしたいですかというような項目があったほうがよいと感じた。</p>
【事務局】	<p>委員の意見について、この設問を提案した担当課を交えて、設問内容を再度検討したいと思う。</p>
【会長】	<p>他に質問・意見はあるか。</p> <p>（特になし）</p>

	資料２－２、２－３について説明を求める。
【事務局】	資料２－２在宅生活改善調査【事業所票】２－３【利用者票】については、ケアマネジャーが回答する調査となる。本来の調査に、ケアマネジャーの業務実態を把握する目的を追加して調査票(案)として作成した。ケアマネジャー全員に、調査への回答協力を求める形となる。 ケアマネジャーである委員より、本調査内容について意見をいただきたい。
【委員】	調査内容について、特にこれは聞かれたくないという項目はない。 おそらく他のケアマネジャーも含めて、ケアマネジャーの本来業務以外のことをかなり対応している話も聞いている。そのため大変な思いをしている方も多くいると思うので、調査で実態を把握できたらと良いと思う。
【会長】	他に質問、意見はあるか。 (特になし)
	資料２－４について説明を求める。
【事務局】	資料２－４居所変更実態調査については、市の独自項目の設定はなく、国の必須項目のみとなっている。
【会長】	質問・意見はあるか。
【委員】	設問４について、医療処置が必要な方の受け入れについての内容だが、経管栄養には複数の方法があるため、胃ろうは対応できるが、経鼻経管栄養は対応できない場合、回答に迷うことが考えられる。
【事務局】	各種調査の手引き等を確認し、後日回答させていただく。
【会長】	他に質問、意見はあるか。 (特になし)
	資料２－５、２－６について説明を求める。
【事務局】	資料２－５介護人材実態調査【事業所票】、２－６【訪問系】については、介護人材不足が課題となっている中、市内の実態を把握する目的で独自項目を多く加えている。忙しい介護現場の方に回答いただく負担をかけてしまうが、協力をお願いしたい。
【会長】	質問・意見はあるか。
【委員】	調査票の内容についての意見ではないが、これまで市としても介護人材確保を目的とした取組は行っているが、それをさらに深めていく感じか。
【事務局】	今年度も介護人材就職応援フェアや介護職員初任者等研修費用助成などを行っているが、今回の調査により介護事業所の支援ニーズを把握し、介護人材確保対策の検討に反映させていきたいと考えている。
【委員】	どこの事業所もそうだと思うが、人手不足の問題は本当にしんどいところで、事業所として色々取り組んでいるが、なかなか結果につながらない。市に協力してもらいながら、前に進めていければ有難い。
【会長】	他に質問、意見はあるか。
【委員】	通所介護と訪問介護の事業所を運営しているが、訪問介護の人材不足が大変な状況が続いている。辞めていく職員は少ないが、新しい職員が増えな

	<p>いのが問題と捉えている。若い人へのアプローチをどうしたらよいかについて、考えてもらえたら有難い。以前、若い人にとっては「ヘルパー」という名称が嫌という話を聞いた。若い人に受け入れられるような言い方があってもいいのかなと思う。</p> <p>通所介護については、人材は充足しているが、通所介護を新規で利用する人が最近少なくなっている。原因のひとつに、市内のケアマネジャーが手一杯で新規の依頼を断ることが多くあり、市外のケアマネジャーに依頼することが影響しているようだ。市外のケアマネジャーに向けて、事業所の良さなどをアピールできる機会があるといいと考えている。</p>
【会長】	<p>他に質問、意見はあるか。</p> <p>(特になし)</p>
【会長】	<p>以上で、今日の予定されている議題は終了となる。</p> <p>事務局より連絡事項等あるか。</p>
【事務局】	<p>計画策定支援業務の委託先について、ちばぎん総合研究所に決定したことを報告する。本日、研究員に同席いただいているが、今後の会議にも参加するので、よろしくお願いします。</p> <p>次回の会議は、来年6月末頃を予定。日程が決まり次第、連絡する。</p>
【会長】	<p>他になければ、以上で会議を終了とする。</p> <p>－閉会－</p>